

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	高津区第3グループ(末長・子母口・梶ヶ谷)	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	高津区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 末長こども文化センター ①年間延べ利用者数 39,451人 ②年間延べ利用団体数 462団体</p> <p>2 末長小学校わくわくプラザ ①登録者数 545人 ②年間延べ利用者数 28,222人</p> <p>3 新作小学校わくわくプラザ ①登録者数 247人 ②年間延べ利用者数 12,530人</p> <p>4 橋小学校わくわくプラザ ①登録者数 385人 ②年間延べ利用者数 19,927人</p> <p>1 子母口こども文化センター ①年間延べ利用者数 34,815人 ②年間延べ利用団体数 496団体</p> <p>2 久末小学校わくわくプラザ ①登録者数 403人 ②年間延べ利用者数 21,154人</p> <p>3 子母口小学校わくわくプラザ ①登録者数 374人 ②年間延べ利用者数 22,376人</p> <p>1 梶ヶ谷こども文化センター ①年間延べ利用者数 24,655人 ②年間延べ利用団体数 351団体</p> <p>2 梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数 312人 ②年間延べ利用者数 12,707人</p> <p>3 西梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数 268人 ②年間延べ利用者数 13,711人</p>
収支実績	<p>単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 170,204,090</p> <p>2 支出 人件費 152,692,338 事務費 11,936,744 事業費 11,954,471 その他経費 141,510 合計 176,725,063</p> <p>3 差引 -6,520,973</p>
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした交流行事・事業の実施。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 利用者の要望を取り入れながら計画的に事業を実施したため、末長こども文化センターでは利用者数が11%増、団体利用も2倍となっている。グループ合同行事としてデイキャンプを実施したり、中学生を含めた地域ボランティア等の協力で「ドッジボール大会」と「横浜港の今と昔ツアー」を実施した。乳幼児利用者の意見を反映して、大型遊具を購入設定したり、ボランティア講師によるベビーヨガを実施し利用拡大を図っている。中・高校生には全職員が挨拶と声がけを積極的に繰り返し関係づくりを図り利用者を増やした。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続 効率的・効果的な 支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか			
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に行われている。全20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、遊具等の備品購入や施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者還元している。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
(評価の理由) 児童の健全育成を推進するため町内会・子ども会や地域教育会議、区役所・地域ボランティア等と連携し様々な事業を実施した。梶ヶ谷子ども文化センターでは4クラブ活動がボランティア講師・指導員によって充実し参加者を増やしており、フラッグフットボールクラブは市の大会で優勝している。子母口子ども文化センターが近隣小中学校や高津区道路公園センターと共同で行う「さんま祭り」や、中学校と民生委員と連携し、中学生と乳幼児親子の「ふれあい体験」事業が定着し世代間交流が図られている。未長子ども文化センターではアンケートのほか、意見箱に入った意見について回答コーナーを作り、子どもの思いに寄り添う工夫をしている。わくわくプラザにおいても、保護者アンケートを実施し、取組みや満足度を調査し、改善の努力を行っている。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) わくわくプラザ利用の障がい児対応については適宜スタッフを配置しており、子ども文化センター及びわくわくプラザ共に、提案どおり適正な職員配置がなされていた。財団主催の研修をはじめ様々な研修に参加し、職員のスキルアップを図り役だてている。個人情報等の取扱については、情報漏えい及び紛失等の事実は無かった。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
(評価の理由) 利用者が安全に利用できるように安全点検マニュアルに沿って施設・設備の安全点検を実施した。また、衛生管理については、衛生管理マニュアルに沿って、引き続き利用者の安全確保に努めていた。アレルギー対応として行事時に、食物の成分表示して保護者に必ず確認するようにし、一日限りの「たべもの安全パスポート」を発行し提示してもらい安全を図った。未長子ども文化センターでは合衆の障がい者支援施設と連携して防災訓練を実施した。防災体制の強化として、学校と協議し、年2回「わくわくプラザにおける緊急時の対応」を保護者に配布し、保護者との連絡を深めた。各施設、避難経路や危険度が高い窓を優先に飛散防止フィルムを設置し施設の安全性を高めた。さらに各施設に非常食・保存水を追加で配備、新たにアレルギー児対応保存食を備蓄する等災害への備えも強化した。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、53施設の指定管理者として、法人本部を中心に、全市規模、区規模の合同行事や職員研修、偏りのないサービスの提供が行えており、グループとしては、3館合同の「横浜港の今と昔」バスツアーを開催するなど、地域の要望を生かしたグループ合同行事や事業を展開できている。

また、各館においても、竹がよく取れることを活かした「流しそうめん」行事の開催など、それぞれが利用者の独自の要望を取り入れ実施し、利用者の交流を促進することで、利用者数の増加につなげた。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、子ども文化センターの利用者が利用しやすい環境の整備に努め、児童が安全で安心して過ごせるわくわくプラザの運営に努めること。